

# 点訳通信

# 117号

日本ライトハウス情報文化センター

点字製作係

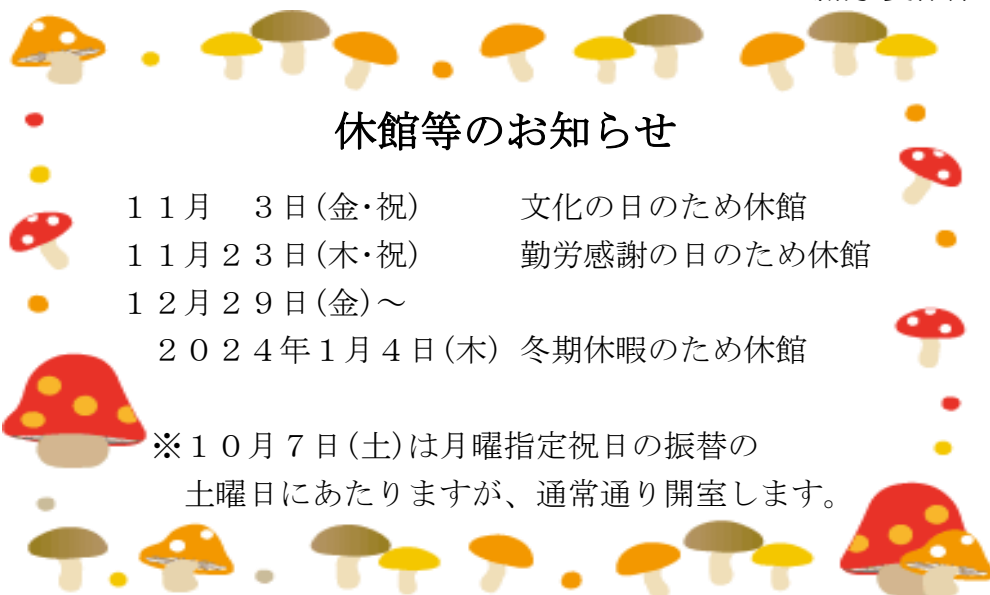
発行責任者 竹下 亘

〒550-0002 大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F

TEL 06-6441-1028(点字製作係直通)

この夏も酷暑に見舞われ、突然の豪雨にあたふたさせられることも多かったですね。  
ある日、風雨の強い日に傘をさして歩いていたところ、突然傘が風にあおられ翻り、骨が折れてしまいました。一瞬のことで啞然としてしまいましたが、今度は骨太な傘を買おうと心に決めました。そんな時、偶然職人さんが作られた傘が売られているところを通りかかり、素敵な傘に魅了され早速品定め。そして、最終的に手にしたのは“蛇の目傘”でした。骨の本数も多く丈夫で、デザインもすっきりしていました。他にも、傘の素材や重さなどを吟味し、新たな一本を購入しました。今回は長く使えるといいなと思っています。

(点字製作係 奥野真里)



## 休館等のお知らせ

- 11月 3日(金・祝) 文化の日のため休館
- 11月 23日(木・祝) 勤労感謝の日のため休館
- 12月 29日(金)～  
2024年1月 4日(木) 冬期休暇のため休館

※10月 7日(土)は月曜指定祝日の振替の土曜日にあたりますが、通常通り開室します。

## 『アミ・ドゥ・ブライユ』がまもなく通巻50号に！

2015年10月に創刊した児童向け点字雑誌『アミ・ドゥ・ブライユ』は、今年12月で通巻50号を迎えます。

点字を通じて語彙や知識を養い、友達や社会とつながって欲しいという願いとともに、偶数月15日に発行し、全国の購読希望されている読者や視覚特別支援学校の図書館にお送りしてきました。この間、多くの読者が本誌を卒業し、また新たな読者へと受け継がれています。

今後も楽しい点字雑誌を届けていきたいと思っておりますので、ご協力、ご支援のほど、よろしく申し上げます。

## 専門点訳講習会「マンガ点訳コース」を開催しました！

第36回専門点訳講習会「マンガ点訳コース」を、7月13日・20日・27日(いずれも木曜日)に当館で行いました。近年、4コママンガをはじめ、本文の内容に沿えられているマンガ、また、マンガのみで表現されているものなど、マンガを扱った図書が多くなりました。これまで、点訳には文字が多い本が適していると考えられていましたが、ここ最近はマンガで表現される本が多くなり、マンガを読みたいと思う点字使用者も増えてきました。

当館でもマンガを含んだ図書を多く手掛けるようになり、他館でも徐々に点訳されるようになっていきます。この講習会では、堺市立健康福祉プラザ視覚・聴覚障害者センターの方にもご協力いただき、マンガ点訳の取り組みについて紹介しました。

様々な事例を紹介し、受講生の方がマンガの課題に取り組み、どのような説明が良いのか、言葉の選び方はどうしたら良いのかななどを、意見交換しました。

以下に、講習会を受講された2人の方の感想をご紹介します。



### マンガ点訳の講習を終えて

つじの すみよ  
辻野 純代(木曜日)

最近是一般書でも教科書でもイラストやマンガの扱いが多くなってきました。今まで点訳したものも説明の仕方が不十分だったのでは？内容がちゃんと伝わっているだろうか？と不安に思っていたのが、この講習を受けようと思った理由です。

マンガを点訳するとなった時に、まず思うのが、視覚的な表現のものを文字のみで伝えられるのかという事です。講習が進むにつれ覚悟はしていましたが、やっぱり手強そうです！！

場面や人物の説明は簡潔にすること。セリフやナレーション、擬声語などの区別を記号の使い方でわかりやすくすること。場面の時間軸を明確にすること(回想シーンなどがある場合、過去と現在をわかりやすく)。表情を示すのに一番しっくりくる言葉を選び出すこと。等々、気をつけるべき点が多々あります。毎回出される宿題も四苦八苦しながら取り組みましたが、難しい難しいと思いながらもだんだんと楽しくなってきました。

例題や宿題についての話し合いでは、人それぞれの考え方や感じ方でそういう見方もあるのかと思うことが多く、マンガ点訳は1人ではなく、いろいろな人の意見を聞いて進めていく方がいいという事はこういうことかと納得しました。

大変だけれども、なんとも奥深く魅力ある世界です。マンガを読みたい方が多いと思いますが、いろいろなマンガが点訳されるようになるといいですね。



### マンガ点訳コースを受講して

こしかわ ゆみこ  
越川 由美子(金曜日)

マンガが挿し絵のように入っている子供向けの一般書を点訳することになり、(どうやって点訳するの?)と、憂慮していたとき、(マンガ点訳のルールをイチから教えてくださいなんて…、これはチャンス)と思い、講習会の受講を決めました。

しかし、講習会の冒頭、「マンガ点訳のルールはありません。あえてルール化されないほうがいい分野かも」と。(えっ、どういうこと？ルールないの?)。

講義が進んでいくと、その意味を理解することができました。マンガで描かれている表情、情景をどの言葉に置き換えるかはもちろんのこと、マスあけ・行あけ、状況説明を入れる位置で、時間や間を表現する。その表現方法によりイメージが変わり、作品そのものにも影響してしまう。想像以上に、とても大変な作業で、文章を点字に置き換えるのとは全く異なる頭を使いました。

マンガを楽しんでもらいたい、でも、点訳者のセンスが必要であり、難しい道のりなのか…。

今回の講習会では、マンガ点訳のポイントを教えてもらいましたが、それらは全て、点訳する上での考え方や心構えに通ずるものでもあったと思います。とても内容の濃い、充実した3日間でした。ありがとうございました。



## 点訳用の図書をご推薦ください！

毎月、選書会議を開き、そこで点訳用の図書を選んでいきます。

ご自身が読みたいなと思った本、読んで面白かった本、点訳したいと思った本など、ジャンルを問わず、ぜひご紹介ください。

推薦される本の「書名」・「著者」・「出版社」・「価格」・「簡単な内容」などは、ボランティアさん連絡用BOXの上にある「ご意見箱」へ入れてください。新聞・雑誌の切り抜きでもかまいません。また、職員に直接お渡しくださっても結構です。

皆さんからの推薦書をお待ちしております！

## 校正勉強会のお知らせ

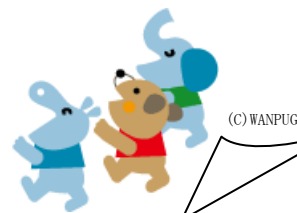
下記のとおり、当館点訳ボランティアを対象にした校正勉強会を行います。実技を交えながら「校正」の取り組み方について考えます。

8階に受付表を用意していますので、参加される方は名前をご記入ください。皆様のご参加をお待ちしています。

10月14日(土) 13:30～15:30

10月17日(火) 13:30～15:30

※いずれの日も同じ内容ですので、ご都合の良い日をお選びください。



## わろう座「触る展示会」レポート！

8月26日(土)、当館会議室で「触る展示会 触って“観よう・知ろう・楽しもう”」を開催しました。コロナ禍には「触る」ことを敬遠されたこともありましたが、やはり視覚障害者にとって、触ることは情報を得ることです。触ることで新たな気づきが生まれ、他の発想にもつながり、可能性は無限に広がります。参加者は「地形図・地図」「彫像・モニュメント」「建築物」「彫刻」の4つのコーナーを、順番に触れて楽しめました。当日、ガイドボランティアをしてくださったお2人に報告していただきます。

### 触って楽しみました



きとら まき  
木虎 真紀(火曜日)

「彫像・モニュメント」のコーナーをもたせてもらいました。手のひら大に縮小したツタンカーメンの黄金の棺、土偶、仏像などいろいろ。モニュメントとして自由の女神と大阪万博の太陽の塔。もともと博物館は好きで、展示物の事前説明の時には「あ、これは実物を見たことがある！」と思いましたが、どれも嚴重なガラスケースの中に鎮座していたり、奈良の大仏のように手の届かない大きさだった記憶が。視覚障害の方はそういう状況では説明を聞くだけで、全くわかりませんね。ぜひ触って“観て”ほしいと思いました。

参加された方の過去の経験はいろいろのようで、大仏や太陽の塔など見た記憶がある方は、「ああ、これは…」と思い出されている感じでした。

写実的な仏像などは、頭・胴体・手足など比較的わかりやすいのですが、土偶は形もバランスもかなりデフォルメしてあり、わかりにくかったようです。遮光器土偶のレプリカは4頭身で頭がすごく大きく作られています。サザエさんの髪のような結髪が顔に思えるようで、じゃあその下の丸いところ(顔)は何？という感じだったようです。私も先入観を捨てて触ってみると、とても人の形とは思えないアンバランスさが逆に面白かったです。また、目で見るとアピールポイントばかり注目してしまいましたが、全体を触ってみると土偶全体にほどこされている模様の細工の面白い手触りもあり、印象が変わりました。

これから3Dプリンターが普及してくると、模型もいろいろ作れるようになるでしょう。今回は時間の制限もあり、次から次と触ってもらいましたが、ご自分の興味のある物については、ぜひじっくり時間をかけて触って楽しんで欲しいと思いました。

### 「触る展示会」に参加して



まつやま ちえ  
松山 千英(水曜日)

「地形図・地図」のコーナーを担当し、日本地図・大阪市内の地図・地球儀について拙いながら説明させていただきました。

日本地図・大阪市内の地図は樹脂でできたパズル状になっており、都道府県・各区ごとに分解できるようになっています。日本地図はマグネットで壁に貼り付けると1m以上になり、触るのは大変ですが、形が精密でよくわかると好評でした。

見学者の付き添いで来られたガイドヘルパーさんの上手な説明にくらべ、私はスマホでカンニングしながらのへたくそな説明になってしまい、恥ずかしかったです。もっと予習ができれば良かったのですが…。悔やまれます。

この日のために遠方から来られた方もいらっしゃり、この企画を楽しみにされていたんだと実感しました。そして参加者のどなたも一つひとつを真剣にじっくりと指先で触れられ、会場を一周したあとに再度地図コーナーに来られるなど、とても時間が足りない様子で、その熱心さに終始圧倒される一日となりました。